



NISA 制度に思うこと

新潟手の外科研究所病院

院長 幸 田 久 男

NISA という略語を一度も聞いたことがない読者はいないだろう。全国民に投資マインドを植え付けるべく、前岸田内閣が推し進めた制度だが、2024年1月以降は新 NISA となり、限度額の拡充や売却後に非課税枠が復活する制度に改善された。そして、成人の40-50%がNISA口座を持っているとのことだから、その普及率は相当なものである。

これだけ NISA 口座への投資が認知されている一方で、家族以外と投資についての会話した記憶はほとんどない。そもそも日本国民には、「投資してお金を増やすことは卑しい」とか、「投資話は基本的に如何わしい」といった印象を持つ者が多いといわれ、その原因の一端は教育にあるとされている。確かに、私が受けた約40年前からわが子が受けている現在に至るまで、義務教育において投資を教えたとは聞いたことがない。

だが、投資についての知識が増えるうちに、資本主義社会において投資は極めて身近なものであることに気づく。そもそも医院・病院の運営は、億単位の借金を背負ったうえで経営を軌道に乗せコツコツ借金を返していくことが大半で、これはまさに投資といえる。私は勤務医だから投資には興味がないという読者もいるだろうが、結局のところ勤務医も何らかの経営母体に属している。自ら提供する医療が病院の収入に直結するのだから、どんな医師も経営から完全に目を背けることはできないのだ。

病院経営に目を向けると、コロナ禍から続く受診控え、エネルギー価格の高騰や円安、コストプッシュ型インフレの進行などにより、赤字を抱える病院の割合は約7割に達するという。さらに、医療費は国家予算を圧迫するまでに膨れ上がり、今

後の診療点数の上昇など期待できたものではない。病院や医院の経営が安定しているというのは過去の話という現実を、読者の皆様も日々痛感していることであろう。

私が勤務するのは総従業員数100人程度の小規模病院であるが、2025年7月から院長を拝命することになった。被雇用者から雇用者側に身を移すことになり、これまでのような単純に医療を提供するだけでなく、従業員とその家族を守るという使命を担わねばならない。患者さんに質の高い医療を提供することが前提となるが、これまで以上に安定的な収入が得られる手段はないかを考えるようになっている。

話がそれたので、NISAに戻そう。私は2022年1月から12月までの1年間、旧 NISA 制度で限度額いっぱい積み立てを行った。しかし、ちょうど1年経つあたりでネット銀行への乗り換えをすることにした。地方銀行における窓口対応で NISA を手続したのだが、よく調べるとネット銀行に比べて手数料がかなり高いことが判明したからだ。乗り換えたらすぐに NISA を再開するつもりだったのだが、一度中断するとすぐに再開するには至らなかった。手数料や過去の実績、今後の展望などが気になり、一体何を買えば良いのか分からなくなってしまったのだ。また、迷っている間に少しずつ円安傾向になり、円高に戻る時期に始めた方がよいのか、などと考えるようになり、休止期間は2年弱にも及んだ。

ただし、完全に思考停止していたのとは異なり、投資について考え続けていたので知識は増えた。すでにご存じの読者も多いと思うが、投資の極意はどれだけ長く市場に止まることができるか、である。また、流行りのインデックスファンドにお

いては、市場の動向を無視して定期的に投資することが勧められている。これを改めて認識した2024年末、インデックスファンドを限度額いっぱい購入することで、再び市場に参加することができた。

インデックスファンドを買ったからには、最低10年は寝かせておかねばメリットは享受できない。よって、現在の価格などを気にする必要はないのだが、いまやスマートフォンから簡単に現状を知ることができる。経済が成長し続けるならば、国内でも海外でもある程度の利率で増加する見込みが立つという前提で行う投資なので、ジタバタしても仕方がないが、現状で含み益が出ているのか、はたまた含み損なのかはとても気になる。

盤石といわれる全世界あるいは全米インデックスファンドも、実際には株価が乱高下する局面が幾度も存在する。実際、昨年8月上旬には歴史的な株価急落に見舞われた。このとき、NISA 制度の改変を機に投資を始めた方の多くが、さらなる下落を恐れるあまり、損失が出ることを承知で売却（これを損切りという）することを余儀なくされた。国内公募追加型株式投信の資金流入額から推定される流出額は300億円にのぼるとされており、投資初心者の多くがこの下落に耐えられなかったという現実を物語る。また最近では、ランプ大統領の関税政策や不安定な世界情勢による株価乱高下は、アメリカ株のみならず世界の株式に大きく影響している。

投資信託協会なる組織のアンケート結果によると、個人投資家の9割は30%以上の下落に耐えられないらしい。よって、NISA であっても短期的な損益が出る可能性があることを肝に銘じ、株価の乱高下に耐えて持ち続ける必要がある。そのためには、あくまで余裕資金を NISA に充当する程度にとどめ、さらに下落局面で追加投資することができれば、長期的に数%程度の利益が出るのではないかと信じている。あくまでも、今後の経済が成長し続けることが前提となるのだが。

一方、自分で事業をしている方の中には、NISA はしないという人もいるらしい。自分の事業にお

金を投じれば NISA 以上の利益が得られるはずだから、あえて NISA にお金を入れることはないという。勤務医にそういう考え方はなかなか芽生えないだろうが、開業医であればクリニックの拡充などを重視する考えもありだろう。

また、金銭的な投資以外にも重要な投資が存在する。それは自己投資であり、特に20、30代の先生においては最も優先されるべきものである。医師免許を手にしたらもう学ぶ必要がないと考える読者はいないだろう。サブスペシャリティを持つことも含め、医師としての研鑽を積むことで自らの労働の対価が上昇することにつながる。自己研鑽を生涯続けることができる先生が名医として後世に名を遺すのだろうと思うが、私の知る限り名医はお金を目当てに研鑽を積んではない。だが、稼ぎが少ない名医というのも聞いたことがなく、周囲からの高い評価が結果的に名医の収入を上昇させるのではないかと推察する。

ここまで投資にまつわる話をつれづれなるままに書いてきた。しかし、自己投資を除くいずれの投資も資産が増えるという確約があるわけではなく、決して安易に投資を勧めるものではない。ただ、私自身はあくまで余裕資金の範囲内において、リスクの低いとされる NISA 投資を長期的に続けてみようかと思っている。まだ投資について明確な指針をお持ちでない読者が、投資をすべきか否か、もし投資するなら何を選ぶかについて一考する機会になれば幸いである。

